

2022年度決算説明会

日時：2023年5月15日（月）午前10:30～11:30

場所：Tech Design X（THE HEXAGON 9階）

形式：オンライン説明会

株式会社TBSホールディングス

(出水アナ)

皆様、本日はお忙しい中、
ご参加頂きましてありがとうございます。
ただ今よりTBSホールディングスの2022年度決算説明会を
開催いたします。本日の司会を務めます
TBSアナウンサーの出水麻衣です。
どうぞよろしく願いいたします。

本日の説明会は、TBS本社前のビルに完成しました
「Tech Design X（テック デザイン クロス）」という
イノベーションスペースから配信いたします。

こちらはその名の通り
「テクノロジーとデザインを掛け合わせる」をコンセプトに、
XRやバーチャルプロダクションなど
最先端の技術を使った演出を実験できる場所となっています。

様々なジャンルのクリエイターたちが
ここ赤坂から世界に向けて
新しいエンタテインメントを発信してまいります。

出席者

代表取締役社長	佐々木 卓
代表取締役	河合 俊明
取締役	菅井 龍夫
取締役	渡辺 正一
取締役	菅木 雅哉
(株)スタイリングライフ・ホールディングス 代表取締役 執行役員社長	北村 博之

司会：出水 麻衣 (TBSアナウンサー)

(出水アナ)

次に本日の出席者です。

- TBSホールディングス代表取締役 社長
佐々木 卓 (ささき たかし) です。
- 代表取締役
河合 俊明 (かわい としあき) です。
- 取締役
菅井 龍夫 (すがい たつお) です。
- 取締役
渡辺 正一 (わたなべ しょういち) です。
- 取締役
菅木 雅哉 (ちさき まさや) です。
- 株式会社スタイリングライフ・ホールディングス
代表取締役 執行役員 社長
北村 博之 (きたむら ひろゆき) です。

以上6名です。

本日の資料とスケジュール

1 TBSグループの業績

代表取締役 河合 俊明

2 経営計画の進捗と成長投資・今後の重点施策

代表取締役社長 佐々木 卓

3 質疑応答



使用する資料はこちらです。

(出水アナ)

本日の資料は、先週12日金曜日に発表いたしました「2022年度決算資料」をご参照ください。

- ▶まず、「TBSグループの業績」について河合より、
- ▶続いて 「経営計画の進捗と成長投資」、そして、「今後の重点施策」について佐々木よりご説明いたします。
- ▶そのあと皆様からのご質問には役員一同でご回答するお時間をとっております。この機会にぜひ、ご質問ください。

2022年度
決算資料

2023年5月12日

株式会社 TBS ホールディングス

(原稿なし)

2022年度 通期決算ハイライト**2023年度 業績見通し****株主還元****経営計画の進捗と成長投資****今後の重点施策****参考資料**

本資料に記載されている将来の当社業績に関する見通しほか全ての内容は、本資料作成時点の当社の判断に基づくものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経済情勢、市場動向、経営環境などの変化により、記載事項と異なる可能性があることに十分ご留意下さい。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

◇お問い合わせ先
〒107-8006
東京都港区赤坂5丁目3番6号 株式会社TBSホールディングス 財務戦略局IR部
Tel: 03-3746-1111 (代表) HP: <https://www.tbsholdings.co.jp/ir/>

(原稿なし)

2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

参考資料

3

(出水アナ)

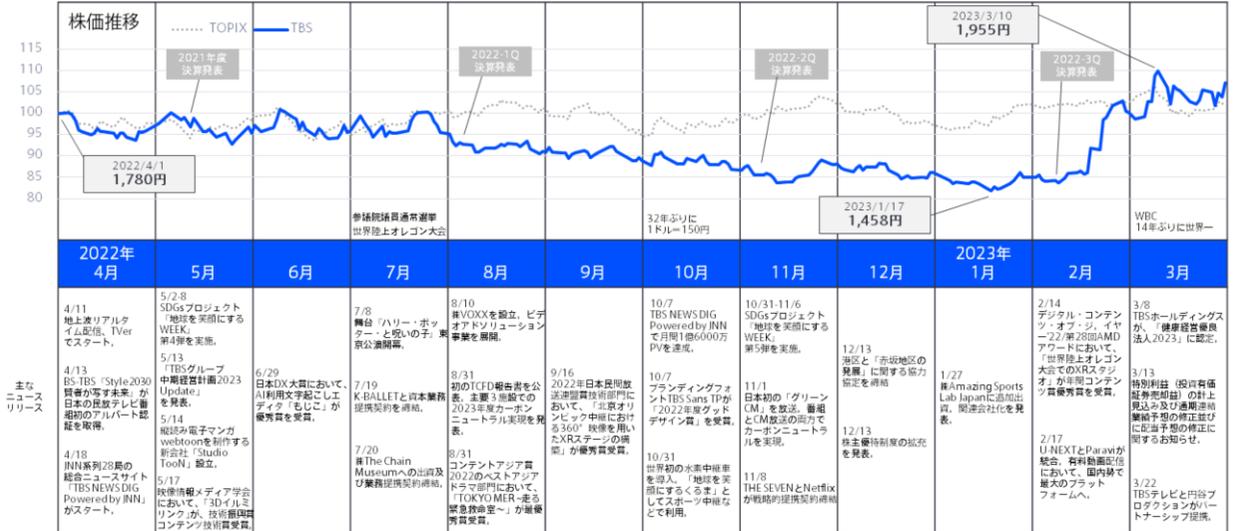
それでは、代表取締役の河合より、
TBSグループの業績について
ご説明いたします。

(河合代表取締役)

河合です。どうぞよろしくお願いいたします。

資料4ページの
「この一年」をご覧ください。

※2022/4/1の株価、指数を100として比較しています。



2022年度を振り返ってみますと、
新型コロナウイルス感染拡大への警戒が続く中、
ウクライナ情勢の影響や
急激な円安の進行による
原材料高や物価の上昇などがあり、
厳しい外部環境でございました。

こうした中、当社グループは
5月に「中期経営計画」をアップデートいたしました。
「ポストコロナを見据えた成長への種まき」を
テーマとして
資料下段に記載のリリースなど、
様々な施策に取り組んでまいりました

2022年度決算

- ▶ 連結全体では増収増益。2009年度のホールディングス化以降、売上高、営業利益ともに最高。
- ▶ メディア・コンテンツ事業は、TBSテレビの無料・有料動画配信事業が大幅に伸長したことに加え、事業部門の催事・興行で大型イベントが大きく貢献し増収。一方で、地上波広告収入減少の影響などにより微減益。
- ▶ ライフスタイル事業は、感染症に伴う自粛要請解除による人流回復などで増収増益。
- ▶ 不動産・その他事業では、賃料収入の回復により増収となったものの、水道光熱費の増加などにより減益。

2023年度 業績見通し

- ▶ 放送関連事業の持ち直し、成長分野である配信や、催事・興行等の事業部門も更なる伸長を見込んでおり、増収かつ経常利益までの増益予想。
- ▶ 「TBSグループ VISION2030」の達成に向けて、引き続き放送事業の価値向上に取り組みつつ、拡張戦略「EDGE」の推進で収益の裾野を広げ、着実な成長へ。

5ページは「連結決算のポイント」です。
2022年度の連結の業績は、増収増益でした。
売上高、営業利益ともに
2009年度のホールディングス化以降
最高となりました。

また、2023年度は、増収かつ営業利益、経常利益の増益を
予想しています。
売上高と営業利益の見込みは、
中計アップデートで
最終年度の目標としてお示ししている数値から、
変更はございません。

詳細を
次の6ページからご説明します。

連結損益計算書

TBS

メディア・コンテンツ事業では、TBSテレビの無料・有料動画配信が大幅に伸長したことに加え、事業部門の催事・興行で大型イベントが大きく貢献し増収。一方で、地上波広告収入減少の影響などにより微減益。ライフスタイル事業では、感染症に伴う自粛要請解除による人流回復などで増収増益。不動産・その他事業では、賃料収入の回復により増収となったものの、水道光熱費の増加などにより減益。連結全体では、増収増益。

(単位：百万円)

連 結	2021年度	2022年度	前年差	増減率
売 上 高	358,269	368,130	+9,860	+2.8%
営 業 利 益	20,346	20,782	+436	+2.1%
経 常 利 益	30,707	35,086	+4,379	+14.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	32,008	35,182	+3,173	+9.9%



まず、連結の損益計算書です。

- ▶グループの主力でありますTBSテレビでの配信事業の成長や、事業部門の収入増加に加え、
- ▶ライフスタイル事業での売上の増加などにより、全体で増収増益となりました。

連結セグメント別 実績

TBS

(単位:百万円)

	外部売上				営業利益			
	2021年度	2022年度	前年差	増減率	2021年度	2022年度	前年差	増減率
メディア・コンテンツ	281,414	285,230	+3,815	+1.4%	10,933	10,911	△22	△0.2%
ライフスタイル	61,023	66,391	+5,367	+8.8%	2,362	3,064	+702	+29.7%
不動産・その他	15,831	16,508	+677	+4.3%	7,062	6,798	△264	△3.7%
調整額	—	—	—	—	△11	8	+20	—
連結	358,269	368,130	+9,860	+2.8%	20,346	20,782	+436	+2.1%

増減要因	外部売上	営業利益
メディア・コンテンツ	TBSテレビ (+6,638) BS-TBS (+881) TCエンタテインメント (△1,021) TBSアクト (△887) TBSスパークル (△723) マンガボックス (△591)	TBSテレビ (+1,251) BS-TBS (+329) TBSスパークル (△481) Seven Arcs (△264)
ライフスタイル	スタイリングライフグループ (+5,367)	スタイリングライフグループ (+702)
不動産・その他	TBSHD (+837) TBSヘキサ (△127)	TBSHD (+400) TBSテレビ (△165) 赤坂熱供給 (△156)

7

7ページは連結セグメント別の実績です。

売上高は、すべてのセグメントで増収でした。

営業利益は

- 「メディア・コンテンツ」が微減益、
- 「ライフスタイル」は増益、
- 「不動産・その他」は減益でした。

増減要因を

次の8ページのグラフでご説明します。

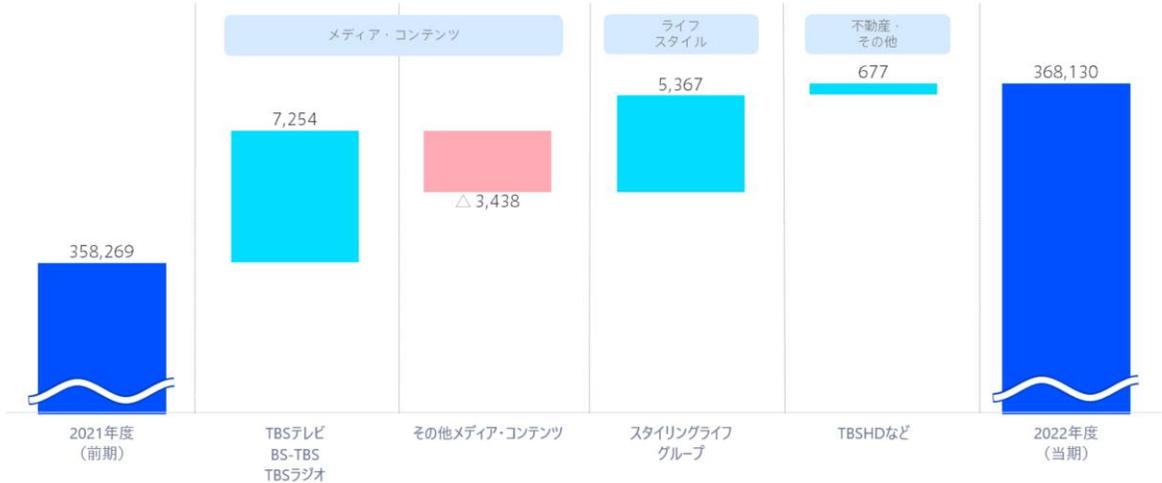
連結セグメント別 売上高（外部売上）の増減要因

TBS

▶ メディア・コンテンツ事業では、TBSテレビのタイム収入、スポット収入が減収となったものの、配信広告収入や事業部門収入が伸長したことで増収。ライフスタイル事業も自粛要請解除による人流回復などで増収。不動産・その他事業も、賃料収入の回復により増収。連結全体でも増収。

■ 売上実績 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)



8

はじめに売上高の増減要因です。

▶ 「メディア・コンテンツ」では、左から2つ目のグラフで示した放送関連の会社は増収でした。TBSテレビでは、放送収入は減収でしたが、配信事業や事業部門の収入が順調に伸び、増収となりました。

その右の、「その他メディア・コンテンツ」は、TCエンタテインメントのDVD販売の減少などにより、減収でした。

▶ 「ライフスタイル」のスタイリングライフグループは、中核の雑貨小売販売事業が大変好調で大幅な増収となりました。

連結セグメント別 営業利益の増減要因

TBS

▶ メディア・コンテンツ事業は、地上波広告収入減少の影響などにより、連結調整その他を加味すると微減益。
ライフスタイル事業は、増収に伴う増益。不動産・その他事業は、水道光熱費の増加等により減益。連結全体では増益。

■ 営業利益 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)



9

続いて、営業利益の増減要因です。

▶ 「メディア・コンテンツ」では、「その他メディア・コンテンツ」の減益幅が大きくなっておりませんが、これは、グループで進めている働き方改革や種まき費用の増加などが要因です。セグメント全体では、「連結調整」を配賦しますと、わずかに減益となりました。

▶ 「ライフスタイル」は増収に伴い増益でした。

▶ 「不動産・その他」は、賃料収入の増加により増収でしたが水道光熱費の高騰の影響などで減益となりました。

次の10ページと11ページは後程ご覧いただきまして、12ページの「TBSテレビの業績」にお進みください。

連結セグメント別 経年推移

TBS



(原稿なし)

設備投資と減価償却費

TBS

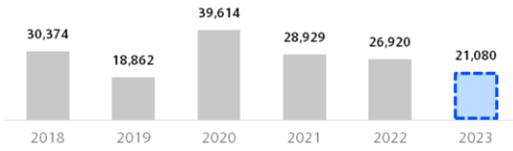
単位：百万円

連結	2022年度	前年差	2023年度 予想
設備投資	26,920	△2,009	21,080
減価償却費	13,407	+59	13,214

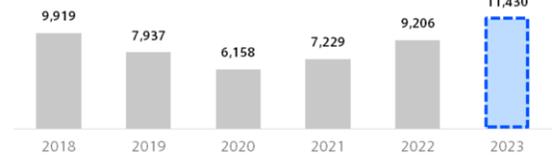
単位：百万円

TBSテレビ	2022年度	前年差	2023年度 予想
設備投資	9,206	+1,977	11,430
減価償却費	8,325	+191	8,318

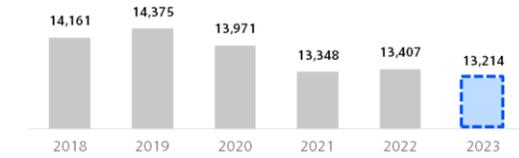
連結設備投資



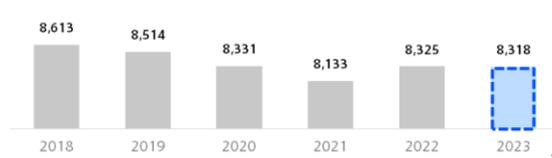
TBSテレビ設備投資



連結減価償却費



TBSテレビ減価償却費



(原稿なし)

TBSテレビ 損益計算書

TBS

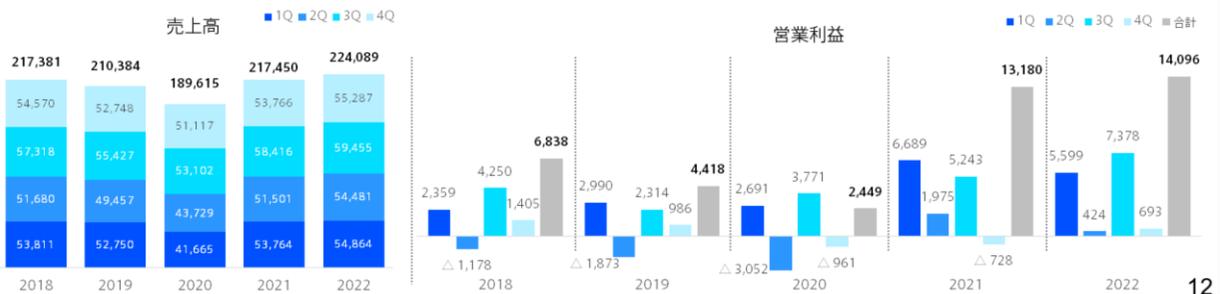
テレビ部門では、タイム収入、スポット収入が減収となったものの、無料・有料動画配信が大幅に伸長したことで増収。
 事業部門では、舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』の公演開始、「ハリ・サン=ジェルマンジャパンツアー2022」も貢献したことで大幅増収。
 営業利益は、増収に伴い増益。経常利益は、増収に加え受取配当金の増加等により増益。当期純利益は、前年の投資有価証券売却益が大きく、反動で減益。

(単位:百万円)

TBSテレビ	2021年度	2022年度	前年差	増減率
売上高	217,450	224,089	+6,639	+3.1%
営業利益	13,180	14,096	+915	+6.9%
経常利益	15,328	16,818	+1,489	+9.7%
当期純利益	16,233	10,722	△5,510	△33.9%

営業費用等

- 番組原価 △ 912
- 代理店手数料 △ 535 (当期 30,477)
- ネットワーク費 △ 86
- 事業部門営業費用 + 4,184
- 特別利益 (投資有価証券売却益) 533
- 特別損失 (退職給付費用, 固定資産撤去費用, 投資有価証券評価損) 1,079



TBSテレビの業績は、
売上高と営業利益、経常利益が増加いたしました。

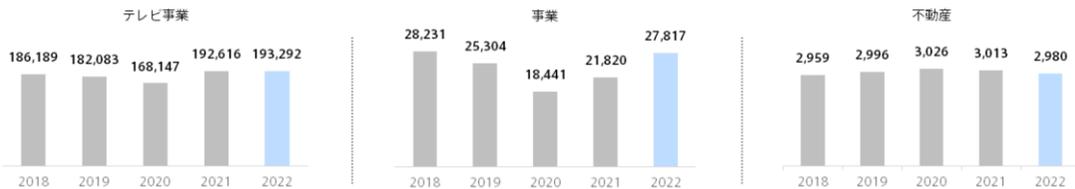
当期純利益が減益となっておりますのは、
前年の投資有価証券売却益が
大きかった反動です。

(単位：百万円)

	2022年度	前年差
テレビ事業	193,292	+675
－ タイム	79,916	△1,915
－ スポット	82,969	△1,589
－ 配信広告※1	5,668	+797
－ その他	24,738	+3,383
事業※2	27,817	+5,996
不動産	2,980	△33
収入合計	224,089	+6,639

※1. 前事業年度においてコンテンツ区分で開示していた収入のうち、当事業年度においては配信広告を別掲したうえで、配信広告以外をその他区分で集計。

※2. 2021年7月より事業部門にあった海外番組事業の一部をテレビ事業の「その他」に移管。



13ページは、TBSテレビの事業別の収入内訳です。

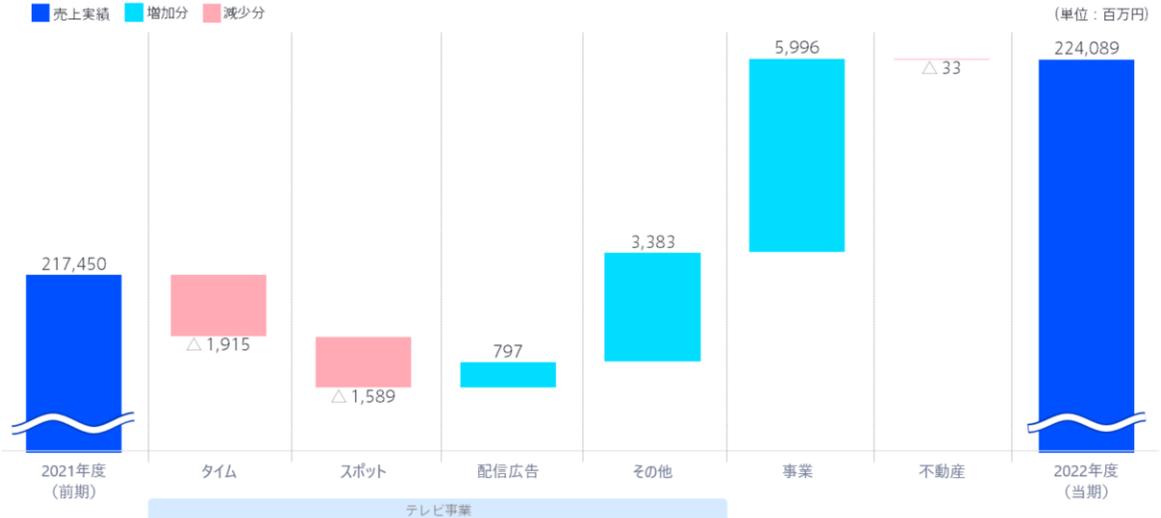
- ▶まず「テレビ事業」は、
タイムとスポットが減収でしたが、
配信事業が成長した結果、この落ち込みをカバーし、
増収となりました。
表の中の「配信広告」は
TVerを中心とした無料領域全体の広告収入で、
増収でした。
またその下の行、「その他」が大きく増収となっておりますのは、
この中に含まれております
「国内有料配信」と「海外配信」の収入が
増加したことによるものです。
- ▶「事業」の収入も大幅に増加し、全体の増収に貢献しました。
- ▶また、「不動産」は微減収でした。

TBSテレビ 売上高の増減要因

TBS

▶ テレビ部門では、タイム収入、スポット収入が減収となったものの、無料・有料動画配信事業が大幅に伸長したことで増収。
事業部門では、舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」の公演開始、「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」も貢献したことで大幅増収。

■ 売上実績 ■ 増加分 ■ 減少分



14

次にTBSテレビの売上高の増減要因です。

- ▶ 「タイム」は、
「世界陸上オレゴン大会」で大きな売上がありましたが、
前年の「東京オリンピック・パラリンピック」の反動が響きました。
- ▶ 「スポット」は、
第4四半期で関東地区投下量が大幅に落ち込み、
減収となりました。
しかし5局シェアは前年より0.5ポイント上げ、
20.6%まで伸ばしております。
- ▶ こうした放送収入の減収分を
配信事業と事業部門が補いました。
 - ・ 「その他」は、国内有料配信と海外配信が順調に拡大、
 - ・ また「事業」は、
舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」や
「パリ＝サンジェルマン ジャパンツアー」などの
大型イベントが寄与しました。

テレビ番組原価（制作費）

TBS

▶ 第4四半期は、「WBC2023」があったものの、前年の「北京オリンピック」の反動減やドラマ等の費用減で減少。通期累計も前年比で減少。

(単位：百万円)

	2021年度実績	2022年度実績	前年差
第1四半期	22,631	23,218	+587
第2四半期	23,580	23,715	+134
第3四半期	24,769	24,357	△412
第4四半期	25,168	23,945	△1,222
(地上波直接費)	19,937	18,248	△1,688
(その他直接費及び間接費)	5,231	5,697	+466
通期累計	96,149	95,236	△912
(地上波直接費)	75,710	74,510	△1,199
(その他直接費及び間接費)	20,439	20,726	+286

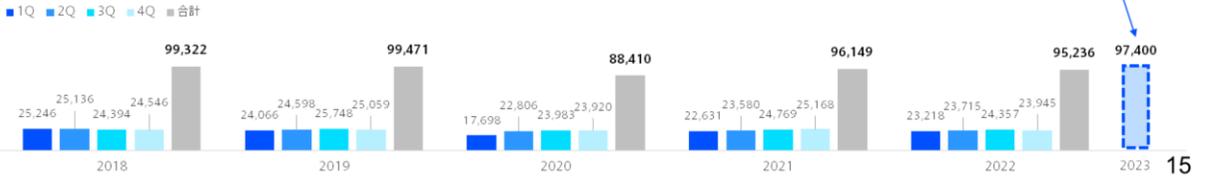
テレビ番組原価に含まれる主な費用

地上波直接費：
番組制作費、放送権利、美術制作費、技術制作費

その他直接費および間接費：
地上波以外の直接費、
減価償却費・社員人件費等の配賦原価

2023年度見込み 97,400

地上波直接費： 76,500
その他直接費および間接費： 20,900



15ページはテレビ番組原価です。

大型スポーツ単発の差などにより
前年より9億円少ない952億円でした。

23年度はドラマ制作の強化などにより、
およそ21億円増加し
974億円を予想しています。

配信事業の状況

TBS

▶ 配信広告収入は、期中を通してセルスルー率が向上し、増収。再生回数、UB数も前年比プラスで推移。
 有料配信は、Paraviなど国内配信と海外配信（Netflix「未来日記」「君の花になる」100万回言えばよかった」、Disney+「マイファミリー」「アトムの子」など）により、増収。

(再生回数、ユニークブラウザ数はビデオリサーチ調べ)		2022年度 前年増減率	2022年度 収入 (前年差)
配信広告収入 ※		+16.4%	5,668百万円 (+797百万円)
TVer・TBS FREE・GYAO! など	再生回数	+7.3%	配信広告収入 (百万円) 
	UB (ユニークブラウザ) 数	+7.2%	
有料配信収入		+43.5%	

※第1四半期決算までの「無料配信収入」から計上方法を変更し、第2四半期決算資料より「配信広告収入」を記載。



16

続いて、配信事業についてです。

TVerなどの「配信広告収入」は、期中を通してセルスルー率が向上したほか、再生回数なども伸び、増収でした。

また「有料配信収入」が大幅に伸びておりますのは

- ・ (Paraviなどの) 国内有料配信が堅調に推移したほか、
- ・ 海外配信では、新作ドラマに加え、過去の人気作品の配信も開始したことなどが要因です。

▶ 舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」の公演開始、「ハリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」の成功が大きく貢献し、催事・興行は大幅増収。映画では「ラーゲリより愛を込めて」、「わたしの幸せな結婚」といったヒット作や、過去作品の配信収入が好調。アニメでは映画「五等分の花嫁」の大ヒットに加え、過去作品の配信収入が好調。グローバルビジネスは「SASUKE」のフォーマット販売が引き続き好調。事業部門全体で増収増益。

(単位：百万円)

部門	2022年度	前年差	主な増減要因
事業 (催事・興行)	10,583	+5,086	舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』の公演開始、「ハリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」の成功が大きく貢献し、大幅増収。
映画	2,245	+203	「ラーゲリより愛を込めて」、「わたしの幸せな結婚」といった大ヒット作の興行収入や、「99.9-刑事専門弁護士-THE MOVIE」や「糸」等の過去作品の配信収入が好調のため増収。
アニメ	1,892	+558	映画「五等分の花嫁」の大ヒットに加え、「プラチナエンド」等の配信収入が好調のため増収。
グローバルビジネス (旧：海外ビジネスセンター)	2,401	+472	2021年7月より海外番組事業の一部をテレビ部門に移管したが、フォーマット販売やロイヤリティ収入が好調のため増収。
メディア事業	8,403	△414	C/S事業はアロケーションの向上などがあったものの、前年同期の水準には届かず減収。
マーチャндаイジングセンター (旧：ライセンス事業)	2,291	+89	「クロサギ」や「君の花になる」など10月ドラマの商品化が好調なことに加え、朝のベルト番組「ラヴィット!」のキャラクター「ラッピー」のIP展開が好調で増収。
収入計	27,817	+5,996	
事業部門営業費用	21,373	+4,184	
部門利益	6,443	+1,812	

17

次は、TBSテレビの事業部門の収益です。

部門全体で

大幅な増収増益となりました。

▶中でも、「催事・興行」が大きく寄与しまして、舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」のほか、下期は、当社のオリジナルIPであるドラマ「君の花になる」と連動したイベントなども大変好調でした。

▶また「映画」は、昨年12月公開の「ラーゲリより愛を込めて」と3月公開の「わたしの幸せな結婚」が共に、興行収入25億円を超える見込みの大ヒットとなり、増収でした。

▶「アニメ」も映画「五等分の花嫁」が大ヒットし、商品化収入も好調でした。

(単位：百万円)

	売上高				営業利益				主な増減要因
	2021年度	2022年度	前年差	2023年度 予想	2021年度	2022年度	前年差	2023年度 予想	
TBSラジオ	8,743	8,490	△253	8,600	601	368	△232	550	イベント収入は好調だったものの、 広告収入がタイム・スポットともに 減収となり、減収減益。
BS-TBS	16,424	17,218	+794	17,600	2,450	2,780	+329	3,000	タイム収入、スポット収入の増収 に加え、配信が好調なことにより、 増収増益。
TBS グローディア	27,539	28,089	+550	30,300	497	337	△160	1,100	企画展やイベントでの集客回復等 により増収。一方、ショッピング 部門の売上、DVD収入の減少の影 響で、減益。
日音	8,384	8,574	+190	9,300	918	836	△81	900	業務代行収入の増加により増収。 一方、邦楽、洋楽収入が落ち込ん だことにより、減益。
TCエンタ テインメント	8,182	7,122	△1,060	7,100	494	474	△19	550	DVD販売の減少により、減収減益。

18ページは、主なグループ会社の状況です。

▶TBSラジオは、タイム・スポット収入の減少により減収減益でした。

▶BS-TBSは、タイム・スポットが増収となったほか配信も好調で、増収増益となりました。

▶TBSグローディアは、イベント関連が回復して増収となりましたがショッピングやDVD販売の減少をカバーできず、減益でした。

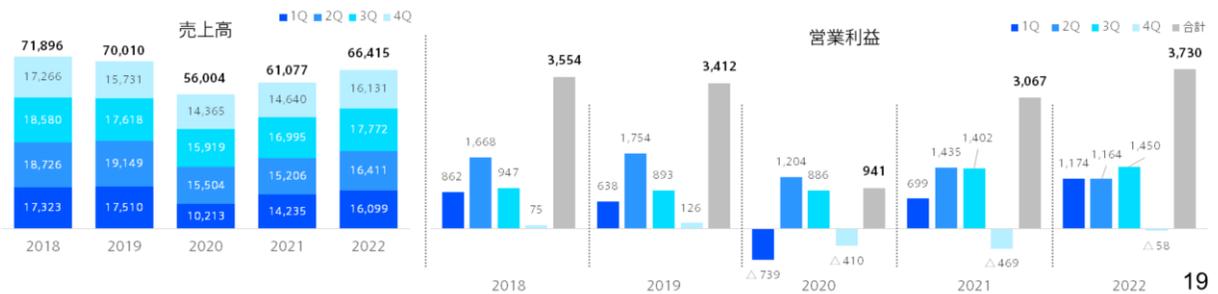
▶日音は、邦楽・洋楽収入が落ち込んだことにより、減益となりました。

▶TCエンタテインメントは、DVD売上の減少で減収減益でした。

▶ 雑貨小売販売事業は、感染症に伴う自粛要請解除による人流回復などの影響で、大幅な増収。
 通信販売事業は、前年好調であった受注の落ち着きにより、減収。ビューティ&ウェルネス事業は、化粧品販売の増加などにより、増収。
 グループ全体では雑貨小売販売事業の影響が大きく、増収増益。

連結	(単位：百万円)				事業別	売上高(※)		
	2021年度	2022年度	前年差	2023年度 予想		2021年度	2022年度	前年差
売上高	61,077	66,415	+5,337	70,000	雑貨小売販売事業	31,218	36,650	+5,432
営業利益	3,067	3,730	+662	4,000	通信販売事業	16,657	16,437	△220
					ビューティ&ウェルネス事業	13,541	13,644	+102
					本社およびその他	△340	△316	+23
					計	61,077	66,415	+5,337

※事業別の売上高は管理会計上の数値



次は、スタイリングライフグループの業績です。

行動制限が緩和されたことなどにより、
 中核の「雑貨小売販売事業」において、
 「Plaza」の店舗売上が大変好調に推移し、
 大幅な増収となりました。

さらに、前年に行った構造改革の効果も現れ
 固定費レベルが切り下がったことから
 営業増益となりました。
 営業利益は、コロナ前の水準を上回り、
 過去最高益を更新いたしました。

23年度は、小売事業での更なる売上増加に加え、
 通信販売事業や化粧品事業の回復により
 増収増益を予想しております。

2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

参考資料

続いて、業績見通しです。

2023年度 連結業績予想

TBS

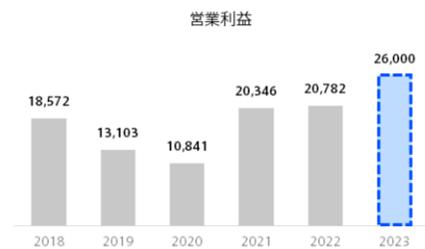
▶ 放送収入の持ち直し、成長分野である配信や、催事・興行等の事業部門の更なる伸長を見込み増収増益（営業利益・経常利益）。
 一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、前年の投資有価証券売却益の反動減の影響で減益を予想。

(単位：百万円)

連 結	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差
売 上 高	368,130	390,000	+21,869
営 業 利 益	20,782	26,000	+5,217
経 常 利 益	35,086	39,000	+3,913
親会社株主に帰属する 当期純利益	35,182	24,500	△10,682

(単位：百万円)

セグメント別予想	売上高			営業利益		
	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差
メディア・コンテンツ	285,230	300,500	+15,269	10,911	15,600	+4,688
ライフスタイル	66,391	70,000	+3,608	3,064	3,300	+235
不動産・その他	16,508	19,500	+2,991	6,798	7,100	+301
調整額	-	-	-	8	-	△8
連 結	368,130	390,000	+21,869	20,782	26,000	+5,217



21

連結の業績予想です。

全てのセグメントで、増収と営業増益を予想しております。

▶ 「メディア・コンテンツ」では、
 TBSテレビの放送収入は
 ある程度持ち直すと想定しているほか
 配信事業は更なる成長を、
 また、
 事業部門も増収を予想しています。

▶ 「ライフスタイル」は、引き続き、
 好調な小売事業がけん引すると見込んでいます。

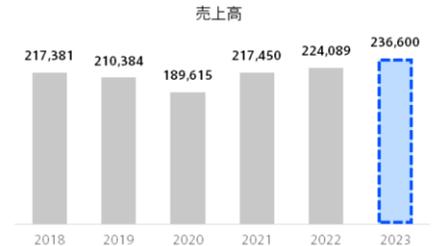
2023年度 TBSテレビ業績予想

TBS

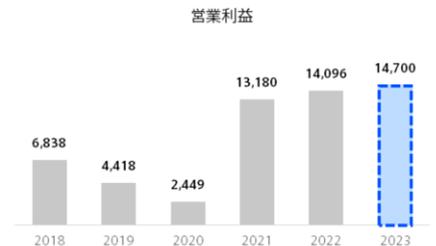
▶ 放送収入の持ち直し、配信収入や、催事・興行等の事業部門の伸長で増収増益。

(単位:百万円)

TBSテレビ	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差
売上高	224,089	236,600	+12,510
営業利益	14,096	14,700	+603
経常利益	16,818	17,100	+281
当期純利益	10,722	11,100	+377



	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差	前年比
タイム	79,916	81,400	+1,483	+1.9%
スポット	82,969	86,000	+3,030	+3.7%
番組原価	95,236	97,400	+2,163	+2.3%



22

TBSテレビの業績予想です。

放送・配信・事業部門など、各分野の伸長を見込み、増収増益を予想しております。

放送収入については、

▶ タイムは、レギュラーのベースアップなどにより増収、

▶ またスポットも、市況の持ち直しやシェアアップなどで増収を予想しております。

2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

参考資料

次に株主還元です。

配当方針と年間配当予想

TBS

基本方針

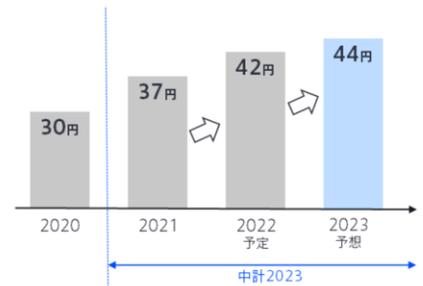
株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、連結ベースの配当性向30%を目標としつつ、安定的かつ継続的な配当を基本とする。業績伸長等の際には、特別配当等により還元の充実に努める。自己株式取得は、これまで通り機動的に検討する。

中計2023 配当方針

1株当たり30円を下限とする。
ただし、2期連続で当期利益を生まなかった場合は、下限配当金を見直すことがある。

	1株当たり配当金 (円)			配当性向 (%)	特殊な要因 (★)の 影響を除いた 配当性向 (%)
	第2四半期末	期末	年間		
2017年度	15	15	30	30.5	30.5
2018年度	16	17	33	22.9	31.7
2019年度	13	17	30	17.3	43.0
2020年度	15	15	30	18.3	59.5
2021年度	15	22	37	19.7	30.9
2022年度 (予定)	20	22	42	20.1	30.3
2023年度 (予想)	22	22	44	29.6	—

(★) 中長期の収益拡大を目指す成長領域への投資の源泉として売却した投資有価証券から生じる売却損益は、配当額を決定する上では「特殊な要因」と位置付けております。



▶ 2022年度は5円増配の42円を予定。2023年度は2円増配の44円を予想。引き続き、安定的かつ継続的な配当を実施。

24

24ページは、配当についてです。

22年度の一株当たりの年間配当金は42円で、前年から5円増配いたしました。

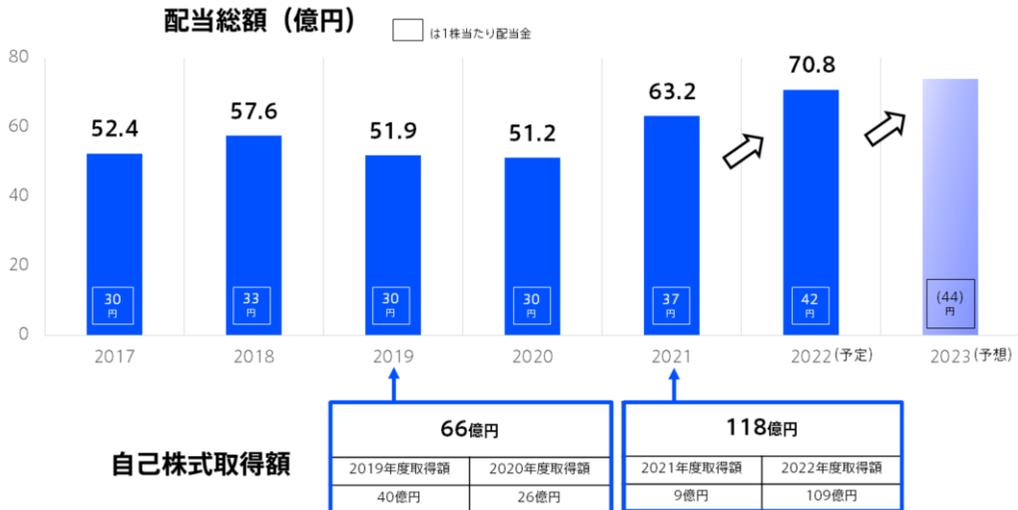
23年度は、さらに2円増配し、中間配当22円、期末配当22円の合計44円を予想しております。

引き続き、安定かつ継続的な配当を基本としてまいります。

配当総額と自己株式取得推移

TBS

▶ 安定的かつ継続的な配当を基本としつつ、引き続き、機動的な自己株式取得を実施。



25

25ページでは、配当総額と自己株式取得の推移をお示ししています。

当社はここ5年の間で、
株主還元および資本効率の向上や
役員や従業員に対するインセンティブ・プランの導入を
目的として、
180億円規模の自己株式の取得を実施しております。

外資規制の中ではありますが、
引き続き、機動的な取得を行って
株主価値の向上に努めてまいります。

私からのご説明は以上です。

2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

参考資料

26

(出水アナ)

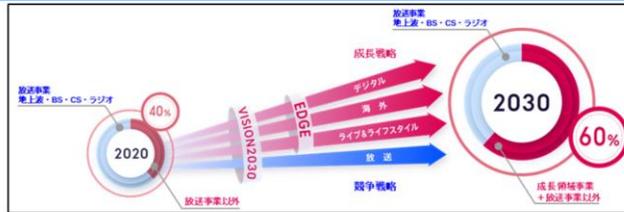
続きまして、社長の佐々木より、
「経営計画の進捗と成長投資」
および「今後の重点施策」について
ご説明いたします。

(佐々木社長)

佐々木です。どうぞよろしくお願いいたします。

放送事業と放送事業以外の収入割合

TBSグループ VISION2030



放送事業以外の収入割合



資料27ページをご覧ください。
「放送事業と放送事業以外の収入割合」の推移です。

「VISION2030」では
放送事業の価値向上に努めながら、
EDGE戦略の推進によって
放送事業以外の売上高比率を拡大させ、
2030年には
グループ全体の収入の60%にまで高めることを目指しています。

ページ中段の円グラフの通り、
放送事業以外の収入割合は
2020年度の40%から順調に拡大し、
22年度の実績は、
中計アップデートでお示した目標値を
上回りました。

23年度は、全体の47.5%にまで高めていくことを目指しています。



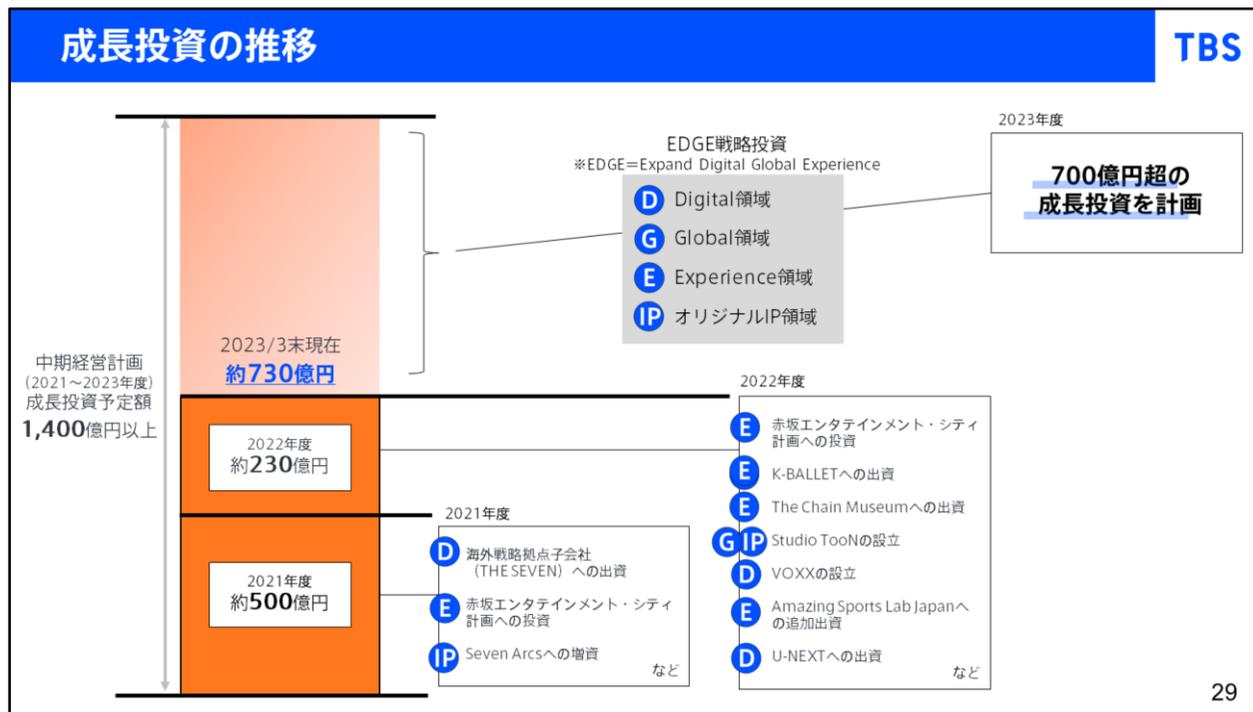
28ページにお進みください。

政策保有株式につきましては、保有の意義が希薄化したと判断した株式については売却する旨の方針をお示ししています。

また、

「中計2023」では、成長投資の原資として、3年間で600億円以上の資産売却を行うことを掲げており、その内訳は、引き続き、政策保有株式の売却を想定しております。

棒グラフは直近5年間の政策保有株式の売却実績です。合計1,161億円の売却を実行しました。



29ページは、成長投資の進捗状況です。
 政策保有株式の売却益などを原資として
 3年間で総額1,400億円以上の成長投資を行う方針を
 掲げておりますが、
 これまでにおよ730億円の成長投資を実行いたしました。

22年度の具体的な投資案件は、

- ・ 赤坂エンタテインメント・シティ計画への投資、
- ・ 「Kバレエ」への出資、
- ・ 縦読みマンガ・ウェブトゥーンの新会社である「スタジオ・トゥーン」の設立

などに加え、
 下期には

- ・ 「Amazing Sports Lab Japan」への追加出資や
- ・ 「U-Next」への出資などを行いました。

中計のテーマである
 「ポストコロナを見据えた成長への種まき」の施策を順調に進めており、
 23年度は700億円以上の成長投資を計画しております。

2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

参考資料

続いて、「今後の重点施策」です。

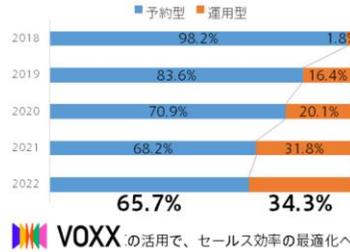
TVerの状況

- 月間動画再生数 3億回を突破
- アプリ累計DL数 6,000万DLを達成
- 配信番組数 650番組以上 (全局総計)

TVerは動画配信プラットフォームとして
着実に成長中



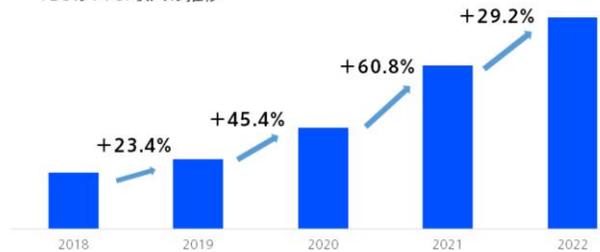
TBSの売上構成比



TBSの業種別ランキング

1	精密機器・事務機
2	情報・通信・放送
3	総合電機機器
4	外食・サービス
5	化粧品・トイレタリー
6	流通
7	不動産・建設
8	ファッション
9	食品
10	官公庁・団体

TBSのTVer収入の推移



31

まず、配信事業の「TVer」についてです。

TVer全体では
今年3月の月間動画再生数が3億回を突破し
動画配信プラットフォームとして
着実に成長しております。

TBSのTVer収入も、
ページ右下のグラフの通り、順調に拡大しております。

動画広告市場のセールスは
「予約型」から「運用型」の割合が徐々に増加しております。
成長投資の一環として
昨年設立したアドテクノロジーの会社
「VOXX (ヴォックス)」の活用などで
セールス効率を最適化し、
23年度も、動画広告市場の伸びを上回る成長を目指します。

配信事業 (有料配信収入)

TBS

国内有料配信

- U-NEXTとParaviが統合
有料動画配信、国内勢で最大に



- ・ Paraviは7月を目途にU-Next内に移管。
- ・ 統合により売上高800億円超、有料会員数370万人以上、配信コンテンツ35万本以上の国内勢最大の動画配信プラットフォームが誕生。
- ・ 両サービスの強みを生かし、より充実したコンテンツ編成が可能となるほか外部コンテンツの調達力やオリジナルコンテンツの企画・制作力を大幅に高めていく。

海外有料配信

Netflix

「ペンディングトレイン」
- 8時23分 明日君と



Netflixでの新作連続ドラマの
世界配信は4作目。
今後も1クール1作品を
世界配信予定。

Netflixシリーズ
「離婚しようよ」



2023年6月
世界配信開始予定

Amazon Prime Video

Amazon Original
「風雲！たけし城」



2023年4月 世界配信を順次開始

THE SEVEN

- 2023年秋にラインアップを発表

2022年11月にNetflixと締結した戦略的提携契約に加え、
その他の海外OTTに対しても企画・提案を行っており、
23年度中に複数本のラインアップを発表予定。

続いて、配信事業の「有料配信」についてです。

- ▶ 国内有料配信につきましては、すでにリリースいたしました通り、「Paravi」は「U-NEXT」と統合し、7月をめぐりに国内勢最大のプラットフォームとして生まれ変わります。それぞれのサービスの強みを生かし、有料会員数を現在のおよそ3倍となる、1,000万人を目指してまいります。
- ▶ 海外配信では、この第1四半期は、記載の3つのコンテンツを新たに配信いたします。
 - ・ Netflixでは、今後も新作連続ドラマを1クールに1作品、世界配信していくほか、6月には、世界市場向けに制作したドラマ「離婚しようよ」が配信開始となります。
 - ・ Amazon Prime Videoでは、オリジナルシリーズとして「風雲！たけし城」の新作の配信が始まっております。
- ▶ 海外戦略に特化した会社「THE SEVEN」は、昨年、Netflixと締結した戦略的提携契約に加え、その他の海外OTTに対しても企画・提案を行っており、23年度中に複数本のグリーンライトが出る見込みとなっております。

今後も積極的にグローバル展開を進め、世界のマーケットでのTBSブランドのプレゼンスを高めてまいります。どうぞご期待ください。

赤坂エンタテインメント・シティ計画

あさひの世界的なエンタテインメントの街へ。
Shake the world.
AKASAKA



舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」
ロングラン上演中。

TBS THE MARKET



THE MARKET POPUP企画
番組発オリジナルIPを商品化し、
期間限定商品など販売企画を展開。



赤坂二丁目・六丁目再開発計画
2028年の竣工に向け、順調に工事が進行中。
東棟は鹿島建設、西棟は大森組の施工に決定。

学びネクスト事業

K-BALLET × TBS

公演とスクール事業の
相乗効果で収益を拡大

TEDDY'S BALLET
2023.03.05 grand open

新スタジオ「TEDDY'S BALLET」
白金高輪にオープン

都内だけでなく、地方都市や
アジア諸国への出店を計画

Amazing Sports Lab Japan × TBS

スポーツ教育事業の基盤
持分法適用会社化

- バルサアカデミーキャンプなどキャンプ事業
- U-12ジュニアサッカーワールドチャレンジなど大会運営
- 留学・遠征事業
- エリート養成の拠点となるアカデミー事業 など

番組との連携や、新規事業の開拓など
提携事業の模索が進行中

現代アート推進プロジェクト

The Chain Museum

22年9月にドラマストリームとの美術展コラボレーション実施
今後、ドラマ等の番組コンテンツとのコラボレーションを予定

33

次に、「エクスペリエンス」領域の事業についてです。

- ▶ 「赤坂エンタテインメント・シティ」では、
 - ・ 舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」が
ロングラン公演を続けており、券売も好調です。
 - ・ また「赤坂二丁目、六丁目再開発計画」は施工会社も決まり、
2028年の竣工に向けて順調に工事が進んでおります。
- ▶ ページ右側の「学びネクスト事業」については、
 - ・ 昨年、専門部署を設立いたしました。
対象を子供だけでなく大人にも広げた
「学び」のビジネスを推進しております。
 - ・ 資本業務提携をしたKバレエとは、
公演とスクール事業の相乗効果による、
収益拡大を進めております。
3月には新しい業態のスクールもオープンいたしました。
 - ・ さらに、サッカースクール事業を運営する
「Amazing Sports Lab Japan」には
昨年12月に追加出資を行い、持分法適用会社と致しました。
スポーツ教育事業の新たな企画が進行中です。

●今後の主なラインナップ

2023/5/12 現在

	期間	タイトル	備考
映画	2023/4/28公開	「劇場版TOKYO MER～走る緊急救命室～」	配給：東宝
	2023/7/7公開	「交換ウソ日記」	配給：松竹
	2023/9/8公開	「禁じられた遊び」	配給：東映
	2024公開	「片思い世界」	配給：東京テアトル、リトルモア
興行	2022/7/8 - ロングラン	舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」	TBS赤坂ACTシアター
	2023/5/7 - 17	ミュージカル「エリザベス・アーデンVS.ヘレナ・ルビンスタイン」	日生劇場
	2023/5/24 - 28	熊川哲也Kバレエカンパニー-Spring2023「蝶々夫人」	東京文化会館大ホール
	2023/7/5 - 23	ブロードウェイ・ミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」	東急シアターオーブ
	2023/7/1 - 17	浅田真央アイスショー「BEYOND The Final」千秋楽公演	アリーナ立川立飛
	2023/7/31 - 8/3	「ル・グラン・ガラ2023」	東京文化会館大ホール
	2023/8/14 - 9/10	ミュージカル「ファントム」2023	東京国際フォーラム ホールC
	2023/9/7 - 24	ミュージカル「生きる」	新国立劇場 中劇場
	2023/9/14 - 18	「浜村渚の計算ノート」	サンシャイン劇場
	2023/10/1 - 11/12	「レディマクベス」	よみうり大手町ホール
	2023/10/8 - 29	熊川哲也Kバレエカンパニー-Autumn Tour2023「眠れる森の美女」	Bunkamuraオーチャードホール 東京文化会館大ホール
2023/11	「ロスメルスホルム」	新国立劇場 小劇場	
催事	2023/3/18 - 6/11	憧憬の地 プルターニュ モネ、ゴーガン、黒田清輝らが見た異郷	国立西洋美術館
	2023/9/20 - 12/11	イヴ・サンローラン展	国立新美術館



2021年12月にスタートし、**会員数52万人を突破** (2023年4月末現在)

続いて、23年度の映画・興行・催事のラインナップです。

映画は

先月末「劇場版TOKYO MER～走る緊急救命室～」が公開され、14日間で興行収入30億円を超え、ロケットスタートとなっております。

また興行も、

多くのイベントを予定しております。

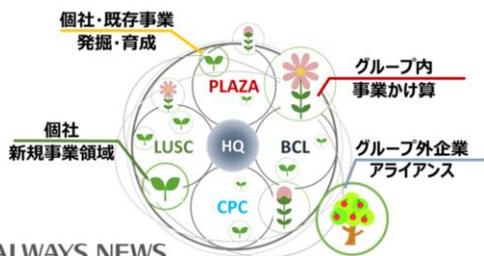
VISION2030

グループ拡張戦略

新事業領域への挑戦を継続

SLHグループ未来デザイン

衣・食・住+美 Beauty&Wellness



社会課題解決

ESGを通して
企業としての社会的責任と向き合う

“CONNECT”
つながろう、つなげよう



- C**reative : 単純な節約や削減や我慢だけでなく、創造的で、工夫のある、楽しい
- O**pen : 社員のみならずステークホルダーもみな参加できるような、開かれた
- N**o-nonsense : やってるふりのない、“wash”や矛盾のない、地に足の着いた
- Carbon **N**eutral : カーボンニュートラルなオペレーションを目指して
- Better **E**nvironment : より良い未来の環境の実現のために
- C**ompassion : 人と社会と生き物と生態系の痛みや苦しみを思い遣り、分かち
- T**enderness : 人と社会と生き物と生態系に対して、親切に、優しく

35ページはスタイリングライフグループの重点施策です。

既存の事業を成長させることに加え、
「VISION2030」の達成に向けて
新たな事業領域にも挑戦してまいります。

23年度は
売上高をコロナ前の水準まで引き上げ、
営業利益も過去最高益の更新を目指しております。

SLHグループ **人気急上昇!**
PLAZA STYLE×BCL COMPANY
共同開発プロジェクト<セラメディ>

ダメージを抱えた髪にもしっかりアプローチ!
潤いロックして徹底プロテクト。
髪のバリア機能に着目したヘアケア誕生。

<https://www.bcl-brand.jp/brand/ceramedi/>



PLAZASTYLE

あなたの街にPLAZAがやってくる!

PLAZA
KOBÉ
HARBORLAND
umie
OPEN
2023.3.3 FRI.

PLAZA
AEONMALL
TOYOKAWA
OPEN
2023.4.4 TUE.

PLAZA
LALAPORT
KADOMA
OPEN
2023.4.17 MON.



36

36ページにお進みください。

雑貨小売販売事業と化粧品製造販売事業を
グループ内に持つ強みを生かし、
PLAZAとBCLで商品の共同開発に取り組むなど、
引き続き、魅力ある商品展開やプロモーションの強化を
進めてまいります。

また、コロナ禍で控えていたPLAZAの出店も加速させており、
22年度は10店舗をオープンいたしました。
今後も積極的な出店を続けていく計画です。

SDGsの取り組み



SDGsの全社プロジェクト「地球を笑顔にするWEEK」第6弾（2023/5/14~20）を実施



TBSテレビでは、SDGsウィークの締めくくりとして、最終日の5/20（土）午後2時から大型特番「一緒にやろう SDGsの日」を8時間にわたって生放送。



5/18（木）～21（日）まで、赤坂のサカス広場を中心に、イベントを開催する。
今回のテーマ「一緒にやろう、SDGs」に則して、TBSがこれまで培ってきた知見やネットワークを活かして、「SDGsの17の目標を体験できる場」を作っていく。

外部評価



2023
健康経営優良法人
Health and productivity

2021年10月に発足した「サステナビリティ委員会」（委員長：佐々木代表取締役社長）のもとに「ウェルネス・ワーキンググループ」を設置し、社員が心身ともに安全に働きがいがあり、創造性を発揮できる職場づくりを進め、健康経営を推進しております。この活動に対し、2023年3月、経済産業省及び日本健康会議より、「健康経営優良法人2023（大規模法人部門）」に認定されました。特に「従業員間のコミュニケーションの促進」「休職後の職場復帰、就業と治療の両立」「女性特有の健康課題への対応」の3項目で高評価を得ています。

GPIFの国内株式運用機関が選ぶ「改善度の高い統合報告書」に選定

「TBSグループ 統合報告書2022」が、年金積立金管理運用独立行政法人（以下、GPIF）の国内株式運用機関が選ぶ「改善度の高い統合報告書」に選出されました。

GPIFでは、毎年、国内株式の運用を委託している運用機関に対して「優れた統合報告書」と「改善度の高い統合報告書」の選出を依頼し、その結果を公表しています。今回の「改善度の高い統合報告書」には、当社を含む95社が選定されました。

37

37ページは「ESG施策」についてです。

SDGsに全社で取り組むプロジェクト

「地球を笑顔にするWEEK」は、
昨日から第6弾を開始しております。
最終日の20日には、8時間にわたる大型特番
『一緒にやろう、SDGsの日』を放送する予定です。

「報道の日」「音楽の日」「お笑いの日」などと並ぶ
TBSのフラッグシップコンテンツとして、
全社一丸となって制作いたします。

また、「健康経営優良法人2023」に
認定されるなど、
外部からの評価もいただいております。
今後も幸福で持続可能な社会の実現に努めてまいります。

●新任社外取締役候補者について

氏名	略歴
武井 奈津子 (1961年2月10日生)	1983年4月 ソニー株式会社 入社 (法務部) (現ソニーグループ株式会社)
	2013年6月 ソニー株式会社 業務執行役員 SVP
	2021年6月 ソニーグループ株式会社 常務 法務、コンプライアンス、プライバシー担当 法務部 シニアゼネラルマネジャー

●新任執行役員について

新たな執行役員として

TBSグループアニメ事業統括
TBSグループデザイン統括

新たな特任執行役員として

グループサステナビリティ推進統括

を追加しました。

最後に38ページは、ガバナンス体制です。

▶先週、決算と同時にリリースいたしました通り、7月からの役員人事として、女性社外取締役をご提案しております。候補者の武井奈津子氏は、ソニーグループ株式会社で常務を務められ、グローバル法務などの豊富な経験や知見をお持ちです。

▶また新たな執行役員のポストとして、グループの「アニメ事業統括」、「デザイン統括」、そして「サステナビリティ統括」を追加いたします。

いずれも「VISION2030」の達成において非常に重要な領域であり、グループ全体としての戦略を強く推進していく体制を整えてまいります。

私からのご説明は以上です。

(出水アナ)
このあとのページには参考資料をつけておりますのでのちほどご覧ください。
※質疑応答へ

2022年度 通期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗と成長投資

今後の重点施策

参考資料

(以下、原稿なし)

連結貸借対照表

TBS

(単位：百万円)

	2022年 3月末	2023年 3月末	比較		2022年 3月末	2023年 3月末	比較
流動 資産	198,692	209,058	+10,366	流動 負債	75,592	104,059	+28,467
				固定 負債	243,037	167,621	△75,415
				負債 合計	318,629	271,681	△46,948
固定 資産	1,002,939	858,807	△144,132	純資産 合計	883,002	796,184	△86,818
				自己 資本	868,455	780,667	△87,788
				非支配 株主持分	14,547	15,517	+969
資産 合計	1,201,632	1,067,865	△133,766	負債 純資産 合計	1,201,632	1,067,865	△133,766

期末有利子負債残高： 200億円 (前期末比 △60億円)

※リース債務は除く

連結キャッシュ・フロー

TBS

(単位：百万円)

	2021年度	2022年度	前年差
営業活動による キャッシュ・フロー	△2,853	30,632	+33,485
投資活動による キャッシュ・フロー	△8,154	△7,346	+807
財務活動による キャッシュ・フロー	△8,164	△24,491	△16,327
現金及び現金同等物の 増減額	△17,354	△1,118	+16,236
現金及び現金同等物の 期首残高	116,061	98,707	△17,354
現金及び現金同等物の 期末残高	98,707	97,589	△1,118

新ファミリーコア視聴率 (4~49歳)

TBS

(※ [] 内は前年同期差 単位: %)

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	③1.5 [△0.2]	②3.1 [△0.3]	②3.0 [△0.3]	③1.1 [△0.1]
日本テレビ	①2.8	①5.0	①4.7	①2.2
テレビ朝日	④1.4	④2.7	④2.7	④1.0
テレビ東京	⑥0.5	⑥1.4	⑥1.3	⑥0.3
フジテレビ	②1.8	②3.1	②3.0	②1.4
NHK	⑤0.8	⑤1.6	⑤1.4	⑤0.6
PUT	9.8 [△1.5]	18.3 [△2.9]	17.4 [△2.8]	7.6 [△1.2]

(2022/4/4 ~ 2023/4/2 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ: 関東地区)

個人全体視聴率 (ALL)

TBS

(※ [] 内は前年同期差 単位: %)

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	④2.8 [△0.2]	④4.3 [△0.3]	④4.2 [△0.3]	④2.4 [△0.2]
日本テレビ	①3.6	①5.8	②5.4	①3.1
テレビ朝日	①3.6	②5.6	①5.6	①3.1
テレビ東京	⑥1.2	⑥3.2	⑥2.8	⑥0.8
フジテレビ	⑤2.4	⑤3.8	⑤3.8	⑤2.1
NHK	③2.9	③5.2	③4.5	③2.5
PUT	19.6 [△2.2]	32.3 [△3.5]	30.3 [△3.3]	16.5 [△1.9]

(2022/4/4 ~ 2023/4/2 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ: 関東地区)

TBSテレビ タイム・スポット収入 対前年比

TBS

(単位：百万円)

	タイム			スポット				備 考
	2022年度	前年差	増減率	2022年度	前年差	増減率	地区投下 (推計)	
4月	7,036	△193	△2.7%	7,380	+216	+3.0%	△0.3%	タイムレギュラーセールスで稼収。
5月	6,560	△166	△2.5%	7,200	△271	△3.6%	△3.9%	
6月	5,968	△351	△5.6%	6,927	△302	△4.2%	△12.7%	ウクライナ情勢や原材料費の高騰などに起因し、スポットの地区投下量低調。
7月	8,541	+644	+8.2%	6,596	+196	+3.1%	+8.1%	
8月	5,953	△2,176	△26.8%	5,669	+663	+13.3%	+8.9%	前年の東京オリンピック・パラリンピックの反動でタイムは稼収、スポットは増収。
9月	6,048	+145	+2.5%	5,991	△327	△5.2%	△9.8%	
10月	6,776	+6	+0.1%	7,282	△25	△0.3%	△4.8%	
11月	6,646	△195	△2.9%	7,808	+127	+1.7%	△6.5%	
12月	6,939	△21	△0.3%	7,660	△222	△2.8%	△6.7%	
1月	7,080	+66	+0.9%	6,406	△565	△8.1%	△2.8%	
2月	5,552	△518	△8.5%	6,224	+104	+1.7%	△0.3%	前年の北京オリンピック・パラリンピックの反動でタイムは稼収。
3月	6,810	+846	+14.2%	7,819	△1,185	△13.2%	△12.0%	「WBC2023」によりタイムは増収。
1Q	19,565	△711	△3.5%	21,508	△357	△1.6%	△5.6%	
2Q	20,544	△1,386	△6.3%	18,257	+533	+3.0%	+1.7%	
3Q	20,362	△211	△1.0%	22,752	△120	△0.5%	△6.1%	
4Q	19,442	+393	+2.1%	20,451	△1,645	△7.4%	△5.9%	
通期	79,916	△1,915	△2.3%	82,969	△1,589	△1.9%	△4.3%	

●スポット5局シェア (推計) 四半期推移

2018年度 19.1% (累計)				2019年度 19.3% (累計)				2020年度 19.7% (累計)				2021年度 20.1% (累計)				2022年度 20.6% (累計)			
1Q	2Q	3Q	4Q																
19.3	19.2	18.7	19.1	20.2	19.2	19.0	18.9	20.5	20.2	19.4	19.3	20.4	20.3	19.7	20.0	21.2	20.6	20.9	19.6

TBSテレビ タイム・スポット収入 経年推移

TBS

●タイム収入

(単位：百万円)



●スポット収入



TBSテレビ 業種別スポット売上順位

TBS

(単位: %)

	2022年度	増減率	シェア	2021年度	増減率	シェア
1	情報・通信・放送	△11.7	18.1	情報・通信・放送	+37.2	20.2
2	外食・サービス	+25.5	9.3	酒・飲料	+36.0	10.2
3	酒・飲料	△11.3	9.2	食品	△7.5	7.9
4	食品	+1.2	8.2	外食・サービス	+28.4	7.3
5	医薬品	△4.9	6.8	医薬品	+2.8	7.0
6	金融	△0.6	5.8	化粧品・トイレタリー	+11.8	6.4
7	不動産・建設	+15.2	4.8	金融	+52.8	5.8
8	交通・レジャー	+25.5	4.8	エンタテインメント・趣味	+60.6	4.4
9	化粧品・トイレタリー	△32.6	4.4	自動車・輸送機器	△8.3	4.2
10	自動車・輸送機器	+1.1	4.3	不動産・建設	+38.9	4.1

※ 順位は金額順

メディア・コンテンツ/ 不動産・その他 (1社)

(株) TBSテレビ

メディア・コンテンツ (13社)

(株) TBSラジオ

(株) BS-TBS

(株) CS-TBS

(株) TBSスパークル

(株) TBSグロウディア

(株) TBSアクト

(株) Seven Arcs

TCエンタテインメント (株)

TBS International, Inc.

(株) TBSメディア総合研究所

(株) 日音

(株) マンガボックス

(株) THE SEVEN

ライフスタイル (3社)

(株) スタイルライフ・ホールディングス

(株) CPコスメティクス

(株) ライトアップショッピングクラブ

不動産・その他 (5社)

赤坂熱供給 (株)

(株) TBS企画

(株) TBSサンワーク

(株) TBSヘクサ

(株) 緑山スタジオ・シティ

持分法適用 (4社)

(株) リトブラ

(株) WOWOW

碧芯瑠(上海)化粧品有限公司 / BCL China Inc.

(株) Amazing Sports Lab Japan